

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 20 日

札幌市立 三里塚小学校

## 1 平岡緑中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	目標の共有化	「心豊かにたくましく未来を切り拓く15歳」に向かって具体的な取り組みを共有することができたか	B	校内環境を整え子どもの声を聴く取組を推進し、さらに学運協への働きかけを通じ、地域とともに9年間の子どもの育ちを共有できるよう改善していく。	A	A
今年度の重点	実践の共有	5つの部門で具体的な取り組みについて話し合い、実践を共有することができたか	A	中学校主導のもと、パートナー校職員による顔の見える具体的な取組に向けた推進会議を進めることができた。今後は、自校の取組と運動をはかり校内体制を整えて実行していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		新たな取り組みを実践している最中だと理解しています。目標達成に向けて努力を重ねてほしい。				

## 2 三里塚小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	目標の共有化	「強い人が創る優しい三里塚」のテーマを運営に位置付けた学校づくりの推進	B	今年度からのテーマである。様々な場面で提示しているが、もう一歩進めていくため、学ぶ力、豊かな心、健やかな体の各取組に位置付くよう新年度の方針に取り入れていく。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		新しい目標を様々な場面で意識しながら具体的な方策を模索し、それを達成できるように学校全体で同じ方向を向いて取り組んでほしい。				

人間尊重の教育	相互承認の感度を上げる	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり	B	全学年において人権教室を実施。子ども同士が、互いを尊重し大切にすることを育てる機会とした。また、年2回のアンケートと対話の日の設定、個人懇談や電話での保護者への連絡により、子どもの悩みをしっかりと受け止め、子どもの悩みやいじめの解決に向けて丁寧にかかわるよう努めた。日常の子ども同士のやりとりであっても悩みや不安を感じ欠席につながることもあり、保護者にも「いじめ」について理解していただく機会を増やしていく必要を感じている。事業発生時には臨時のいじめ防止対策会議で即時共有と対応を検討、また月に1度のいじめ防止対策会議では、これまでの事業の経過と今後の対応について協議、役割分担等行っている。いじめに強い学校づくりに向けて、今後は、職員研修を実施し子どもをどのように育てていくかについてベクトルをそろえること、さらに、教員による不適切な発言や指導が行われないよう、今後も職員研修の場を設定し推進していく。	A	A
「学ぶ力」の育成	「たい」が生まれる学びの推進	仲間と練り合いながら課題解決に向かう授業展開が工夫されている	B	授業場面においては、特に高学年において、個と協働をうまく組み合わせながら取り組む授業の展開を工夫して行うことができた。1・2年生の生活科の学習では、児童の興味や意欲を喚起し、子どもの思いを生かした学びを進めていく場面も見られた。また、研修部(新設)の校内研修により職員同士が学ぶ場を積極的に作ってきた。授業場面の「教」になる部分については個人研究にゆだねられている部分も多く、次年度焦点化を図る必要がある。併せて、ICTを活用した学びの研修と充実も図っていく。	A	A
「豊かな心」の育成	「大切」にする意識の醸成	場に応じた正しい言葉遣い、あいさつや廊下歩行、時間厳守などルールとマナー向上に向けて取り組む	B	言葉遣いやあいさつについては、全校で共通して学級指導に取り組むことを実施した。掲示物など「見える化」により、少しずつではあるが学校全体で共通して取り組むよさ、必要性が見えてきたところである。次年度以降も継続を図っていく。規範意識の向上については、厳しい指導だけでなく子どもの心に響く指導を繰り返ししていく必要がある。また、子ども自身に考えさせる場面も大切にしていける。子ども一人一人のよさを認め広げていく教師の役割について更に充実させるよう努める。	B	A
「健やかな体」の育成	強い体を育む	子どもたちの運動機会が増進するような指導や活動が行われている	B	授業での運動時間の確保、休み時間に体を動かす3間の提供、ICTの活用による運動時の自分の動きを確認する場の設定等職員の研修を含めて推進した。また、食育を含め自分の体づくりや健康な生活についての意識を高めていくことが必要である。外部講師による指導(授業)も含め、今後は自身の健康を意識することや食育を含めた健康教育の指導の工夫を行っていく。	B	A
学校関係者評価委員会による意見		今回の委員会でこれまで実施されてきた内容を持って、自己評価の奥に多くの取り組みがなされていることを知った。各項目の達成状況がすべて「B」とされているが、もう少し高くてもよいと思う。学校評価アンケートでは、教職員と他との乖離や質問事項と表題がマッチしていないものがあるように思える。様々な場面で伝えることの大切さを、関わる全ての大人が考え行動できるとよい。				

学校独自に設定する分野	異校種交流、異学年交流、異年齢交流	A	清田区シニアスクールと皆さんと児童交流を進め、「他者」への温かい思いを醸成させている。	A	A	
	キャリア教育	A	学年に応じた外部講師の指導の機会をより多く設定し、他者への共感的理解や将来に向けた夢をもつことを目指している。	A	A	
	同僚性を高める	A	欠員のある学校ではあるが、職員の主体的な動きにより支えられている。	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		今年1年間ありがとうございました。学校で必要と思われることがあれば、いろいろな場面で協力することができるので声を掛けてほしい。				